

[8] (1-1)

(a) C として $a = 2$ とする。
 F は 正しい。
 P として $P(u) \wedge u > 0$ と割りあてず。

この解釈と与えられ、必ず $p(a)$ は 真 となる。 $\forall x (p(x) \rightarrow p(a))$ は 真 になる。

(b) C は 正しい
 F として $P(u)$ は $u \times 0$ と割りあてず。

P として $P(u)$ は $u < 1$ と割りあてず。

この解釈と与えられ、 $p(u)$ の u は 必ず 0 とする。 $p(u)$ は 必ず 真 になる。

(c) C として $a = 0, b = 1$ とする。

F は 正しい

P として $p(u)$ は $u > 0$ と与えられ。

この解釈 $(\neg p(a) \vee \neg p(b))$ は 必ず 真 となる。 $\forall x (p(x) \rightarrow (\neg p(a) \vee \neg p(b)))$ は 真 となる。

(1-2)

~~(a) C は 真
 (b) C は 真
 (c) C は 真~~

充足不能!!

$p(x)$ は $x \geq 0$

$q(x)$ は $x > 0$

(a) で p は 真 q は 偽 (真)

(b) で p は 真 q は 偽 (真)

(c) で p は 真 q は 偽 (真)

(1-3)

~~$p(u) = u \geq 0, q(u) = u < 0$ とする。 $\forall u$ に関して $p(u)$ は 必ず 真。 $\forall u$ に関して $q(u)$ は 必ず 偽。~~

~~必ず 偽。 よって $\forall x (p(x) \vee q(x))$~~

~~$p(u) = u > 2, q(u) = u \leq 2$ とする。~~

~~$\forall p(u)$ は 必ず 偽。 $\forall q(u)$ は 偽 であるが、 $\forall u (p(u) \vee q(u))$ は、 u が 必ず 2 と 3 の間で満たすので、真 になる。~~

(2) $A' = \neg A = \neg (\neg \forall y \forall x p(x, y) \wedge \exists y \forall x (p(x, y) \rightarrow q(x))) \vee \forall z q(z)$

$= \forall y \forall x p(x, y) \wedge \exists y \forall x (p(x, y) \rightarrow q(x)) \wedge \neg \forall z q(z)$

$= \forall y \forall x p(x, y) \wedge \exists y \forall x (p(x, y) \rightarrow q(x)) \wedge \exists z \neg q(z)$

$= \forall y \forall x p(x, y) \wedge \exists y \forall x (\neg p(x, y) \vee q(x)) \wedge \exists z \neg q(z)$

$= \exists z \exists y (\forall u \forall x p(x, u) \wedge \forall u (\neg p(u, y) \vee q(u)) \wedge \neg q(z))$

(2-1) $= \exists z \exists y \forall u \forall x (p(x, u) \wedge (\neg p(u, y) \vee q(u)) \wedge \neg q(z))$

z, y は スコープ関数 a, b と導入

(2-2) $= \forall u \forall x (p(x, u) \wedge (\neg p(u, b) \vee q(u)) \wedge \neg q(a))$

導出節は $p(x, u), \neg p(u, b) \vee q(u), \neg q(a)$
 \vdots
 ① \vdots ② \vdots ③

② で $u = a$ と入れれば $\neg p(a, b) \vee q(a) \dots ④$

③ と ④ で $\neg p(a, b) \dots ⑤$

① で $u = b, x = a$ と入れれば $p(a, b) \dots ⑥$

⑤ と ⑥ で 導出節は 0

(2-3) よって A' は 充足不能である。